

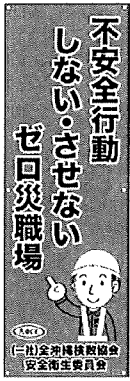
## 無災害記録表彰…最高位「第5種」の最長事業場からの報告

一般社団法人全沖縄検数協会（検数・検量部門で無災害時間が269万1千時間）

当協会（代表理事会長 平良優、従業員数130名）は、1970年3月に貨物流通における総合的検査機関として、貨物の検数・検量・検査事業並びに物流の調査・研究・その他これらに関連する事業を行うことを目的に設立され、那覇港・平良港・石垣港において事業を展開しております。

検数・検量事業はお客様である船社や代理店・港湾運送事業者等から依頼を受け、検数員や検量員が各配置先において業務を行うことから、先ずは「依頼者にご迷惑をおかけしないこと」を最重要事項とし、「不安全行動、しない・させない、ゼロ災職場」をキャッチフレーズに日々安全作業に努めております。

我が社の安全衛生活動の取組みですが、月に一度、会社側と従業員が現場の安全衛生パトロールを実施し、その後の安全衛生委員会では産業医の意見を交えながら、危険要因や課題点などを速やかに協議し改善に向け対策を行っております。また安全パトロール時は「服装の乱れ・不安全行動は無い



か・危険な芽は無いか」などリスクの発見と安全管理を保っているかを巡視しています。更には職員一人ひとりに声掛けを行い安全に対する意識向上に努めております。他にも日頃から各職制が現場で安全点検を行い「指導改善報告書」に好事例や指導改善点を記入し、それを役員と職制に回覧して情報を共有しております。

無災害を続けていく中で苦労したことは、作業を依頼する関係会社が現場毎に異なるため、検数員等に危険要因が存在しているも我々だけの判断ではそれを改善することができず、その会社と相談し、作業協力を頂きながら改善できたことです。一例をあげると、作業現場が車両やフォークリフトが行き交う最も危険な場所、検数員等の施検場所が指定された場所だと危険と判断し、車両の停止位置や動線等を関



係会社と協議しながら変更にご協力していただいた結果、リスク低減を図ることができたことです。

次に安全衛生教育では、新入社員教育や熱中症予防対策、関係会社が行っているフォークリフト死角検証やフルハーネス講習等に積極的に参加し安全教育を行っています。また、事務所内では従業員に対し出勤時に健康チェックシート（熱や倦怠感はないかなど）を記入させ、職制が確認し従業員の体調管理に取組んでおります。

更に本船作業及び沿岸作業前に関係会社のツールボックスミーティングに参加し、作業内容の確認、危険ポイントの確認、安全に作業を行うための注意事項等を確認しております。

高温多湿の沖縄県では熱中症予防対策は欠かせません。作業前のミネラル補給粉末の摂取や空調服の貸与、検数員等の詰所に電源が無い場合はポータブル電源を活用した送風機の設置、断熱材や日光・雨などを塞ぐ庇を設置す



るなど室内温度を下げる工夫も熱中症予防策として行っております。

今回名誉ある無災害記録表彰「第5種」の受賞は、長年にわたり安全管理体制を整えた先輩方の活動と共に関係会社の協力があつて受賞できたことだと役員一同とても嬉しく思います。

各作業現場においては関係会社も違い、またその作業内容も変わってきます。港湾労働災害防止協会沖縄総支部安全委員の安全指導を中心に各関係会社は、現場で働く全ての従業員の安全を守る強い仲間意識があり、無災害が少しずつ積み重なってきました。弊会だけの力ではできないこともありました。皆さまの力で受賞できたことに感謝いたします。

これからも益々精進し、無災害を一日一日積み重ね「無災害の通過点」が続けて行けるように努力して参ります。「安全をすべてに優先」することを基本に協会トップ・職制・従業員が率先して職場の安全衛生を確保し、働き

やすい環境を整え、そして従業員一人ひとりが安全意識の向上を図り、より安全安心できる職場環境を目指していきます。

ご安全に！  
安全衛生対策室長  
玉城修也